

# 末期的状況を現出した104臨中！

# 日刊 動労千葉

79.5.20  
No. 14

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二五八・九・（公参）三三二七二〇七

動労千葉の戦国闘争は断固闘争のNO.1



「オルグ」の総括もできない  
不明確で無責任な引きまわし！

一〇四臨中委方針案のデタラメさはまず、「三万人」を全国からカキ集めて「オルグ」したにもかかわらず、ただ一人の動労千葉組合員をも獲得できなかったことについての総括が全くできていないということだ。

「4・28」5・1「オルグ」の結団式に、「短期決戦だ。今度でおしまいだ。必ず再建千葉地本を結成する」と大見得を切った暴力分子と林委員長以下のとりまきは、自らの路線的誤りを、貴重な組合費を湯水のように浪費しながら暴力によって押し通そうとする労働運動にあるまじきやり方の責任を一体どう考えているのでしょうか。ゴルフにウツツをぬかしすぎ労働者の感性を全く喪失してしまったのでしょうか。まさに、無責任の極みと言わなければなりません。

七九春闘放棄を居直る！

一〇四臨中方針のデタラメさの第二は、七九春闘、統一地方選の闘争放棄について居直り、全くひとりよがりの総括をするともに「当面する具体的方針」が「千葉地本再建」のみは微に入り細にわたって書き連ねられている一方で、その他の反合闘争等については全くやる気のないものだという事です。

暴力分子の「謀略を基軸にすえた動労型労働運動」の正体とはこんなものです。  
こんなものに動労運動の実りある展望が期待できるのでしょうか。

四月二八日からの動労千葉破壊暴力「オルグ」計画に見られるように、自らが全く闘う気がなか

全国の動労組合員の皆さん！ 「動労本部」は五月一日、第一〇四回臨時中央委員会を開催しました。この一〇四臨中こそは、動労運動の変質、労働運動の破産、セクト的動労私物化の実態をあますところなく示しています。動労をこのまま「本部」暴力集団の引きまわしに委ねておいては「夜間列車の廃止」「ローカル線切り捨て」「武操型貨物合理化」「一〇万人合理化」等々、資本・当局が「55・10」を期してかけようとしている大合理化攻撃に抗すべくもありませんし、激動の八〇年代を闘う階級闘争の中核を担うべき労働運動の前進を、動労が先頭に立って闘うことなどできるはずありません。動労運動の戦闘的再生をかちとるために今こそ動労千葉と共に決起しようではありませんか。

ったにもかかわらず、総評や国労、全電通等々動労以外の闘いを全てコキオロし、「自分だけが正しい」とする恒例の「動労型総括」で労働者の、階級的連帯による真の労働運動などできるはずありません。

許せない 中江氏への攻撃！

討論の内容もまたおソマツなものでした。  
一人の発言者のほとんどが中江前副委員長の労働運動の指導者としての筋を通した辞任について触れた発言をしています。あろうことか革マル分子は事実を歪曲してあげつらい、非難したあげくに「二七年間も動労に功労を尽した指導者がこのような形になることは、動労の運動に何等かの欠陥があるのではないか」という「卒直」な意見に対して、城石組織部長が先頭に立って「もっと怒りをもつべきだ。中江が全国を歩くようなことがあったら、身の危険を感じるようなことも含めて、歩きまわれないような体制を作れ」と答弁しているのです。

ここに、私達は動労運動の末期的状況を見る事ができます。

これが労働運動の指導者の言うことでしょうか。このような指導者のもとで、はじめて「水本運動」に対する異常な取り組みや、「謀略」や「貨物安定宣言」で生産点からの闘いを圧殺する労働運動が可能となるのです。

このような状況下で、全国のまじめな組合員の動揺は深まり、真実を知りたいという声が動労千葉に集中しています。

動労千葉はこの闘いが必ず勝利することに自信と確信をもっていかなる攻撃があろうとも「本部」暴力集団と断固対決する決意です。